



Communication on Engagement

■本コミュニケーション・オン・エンゲージメントが対象とする期間

開始日: 2017年8月26日

終了日: 2019年8月19日

■パートI. 最高責任者による国連グローバル・コンパクトへの継続的支持の表明

ステークホルダーの皆様へ

私は、本校が人権、労働、環境、腐敗防止に関する国連グローバル・コンパクト 10 原則を支持することをここに確認し、ここに表明いたします。これは、国連グローバル・コンパクトに対する本校のコミュニケーション・オン・エンゲージメントです。皆様のフィードバックをお待ちしています。このコミュニケーション・オン・エンゲージメントでは、当団体をはじめとする各種組織に対して提案された国連グローバル・コンパクトおよびその原則を支持するために本校が行った取り組みについて説明しています。また、本校の主要なコミュニケーション媒体を通じて、本校の取り組みを積極的にステークホルダーの皆様にご公表していきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2019年8月26日

校長 天町 誠

■パートII. 取り組み状況

(1) GCの原則(人権・労働・環境・腐敗防止)の組織運営への導入

大阪府の基準に従いその推進に努めています。学校ごとにその推進方法を委ねられている「人権」については以下のように教職員研修を行うことにより、人権に関して敏感な学校運営および教育がなされるように努めてきました。

2017年度 テーマ: LGBT とは・LGBT の生徒への対応

講師: HIV と人権情報センター村上貴大氏、内藤れん氏

2018年度 テーマ: 発達障害のある生徒の理解と支援

講師: 和歌山大学教育学部教授 武田鉄郎氏

(2) 活動を通じた GC とその原則の推進

1. GC に関連するテーマについての教育の提供

① 本校は国際文化科の生徒に対し、2015年度の文部科学省スーパー・グローバル・ハイスクール指定への応募を機に、GCが取り上げる人権・労働・環境の問題について、下記の通り、教育課程に位置付け、あるいは希望者対象の研修として指導を続けてきました。

外部の教育資源との繋がりも重視しています。1年生を対象に人権 NGO・環境 NGO からゲスト講師を招いてコラボ授業を行うほか、2年生の課題研究科目『探究』では、優れた研究を集めた代表発表会に GCNJ 加盟企業の CSR 担当者をお招きし、研究の社会的意義や現場での状況を生徒に伝えていただきました。

3年生は、英語の選択科目『トピック・スタディズ』において、人権・労働・環境を含むグローバルな課題を取り上げて学習します。この授業では、最新の状況を知るとともに模擬国連のスタイルを用いて各課題への国によるスタンスの違いを調べ、意見を出し合い、合意できる点を探る活動を通して深い理解が得られるようにしています。

国際文化科対象の教育(2017年度～2019年度共通):

・授業『国際理解』(1年生・総合的な学習の時間の1単位・通年):

→人種・文化・宗教の多様性ととも、日常生活が GC 課題とつながっていることを学ぶ。

・授業『探究基礎』(1年生・総合的な学習の時間の1単位・後期):

→GC 課題を題材に情報収集、論理的な意見構築、多面的検討、現実的な解決策の案出を学ぶ。

・講演会(1年生・全員対象):

→国際公共政策の研究者を招き、アカデミックに GC 課題に取り組む方法と生き方を学ぶ。

・Global フィールドワーク研修(1年生・希望者対象)

→地元の国際交流協会・モスク・コリア系国際学校を訪問し、異なる宗教・異なるルーツを持つ人との対話を体験するとともに、国際人権について学び、グローバルリーダーが持つべき資質 (Diversity & Inclusion) について理解する。

・企業訪問研修(1,2年生・希望者対象)

→GCNJ 加盟企業を中心に企業を訪れ、CSR の取り組みを学ぶ。

・授業『探究』(2年生・総合的な学習の時間の2単位・通年):

→自分が関心のある社会課題を一つ取り上げ、1年をかけて現状・原因の把握、解決策の提案を目的に「探究」する。2月の校内研究発表会で全員が口頭発表し、最後は論文にまとめて提出する。途中、大学院生から論文作成について個別指導を受ける。また、代表に選ばれた研究は、10月・2月の発表会で大学の研究者および企業の CSR 担当者から講評を受ける。

・海外研修(2年生・希望者対象)

→Diversity & Inclusion をテーマにニューヨークを訪問する。多様な背景を持つ人々が良い形で共生するためのトレーニングを体験するとともに、学校・メディア等における取り組みを学ぶ。また、多様性が生じた歴史的背景として移民が置かれた境遇を学ぶため、中国及びヨーロッパからの移民に関する博物館を訪問する。

・授業『トピック・スタディズ』(3年生・英語選択科目・2単位・通年):

→グローバルな課題について、国連等作成のビデオや記事・Web上のニュース記事を素材に最新の状況を英語で学ぶ。また、課題から2つを選んで「模擬国連」を行い、国による立場の違いおよび国際連携の難しさと可能性を体験を通して学ぶ。

② 2019年度からは学校教育計画の「めざす学校像」の中で「国際社会や地域社会において持続可能な開発のための目標 (SDGs) 2030 アジェンダを実践できる人材の育成」を挙げ、本校のもうひとつの学科である総合科学科においても SDGs の解決を教育の目的に据えました。

具体的にはスーパー・サイエンス・ハイスクール事業のコア生徒集団(Future Scientist Group: FSG)を対象に、朝日新聞社と連携してSDGsの基本的な考えとその解決の具体例を学ぶ「SDGs教室」から始まる学習の流れを提供し始めました。FSGの生徒から他の生徒へSDGsへの関心と課題意識が広がることを期待しています。

また、SDGsに対して文理が融合して取り組む経験を提供していくため、その第1歩として、環境を共通テーマとして両学科の2年生が研究を交流するシンポジウムを10月に開催することを決定し、準備を進めています。ここでは本校が受け入れている海外からの留学生から各国での環境への取り組みも紹介してもらうことにしています。

③ さらに、大阪府の方針として以前から継続して人権に関して生徒が理解を広げ、深めるための研修を行っています。2017、2018年度は下記の内容で実施しました。2019年度は3年生対象の研修のテーマをSDGsとの関連を意識して「国際社会と人権」とし、アジア太平洋人権情報センターから所長の三輪敦子さんを講師にお招きし講演を行っていただきました。

年度	対象	テーマ	講師・教材等
2017	1年生	①ネットモラル	KDDI ケータイ安全教室
		②学校生活と人権	アンケートとその結果
		③LGBTとは	HIVと人権情報センター村上貴大氏、内藤れん氏
	2年生	①障害を持って生きる	映画『グレート・デイズ』 NPO 法人パラキャン 諸隈有一氏
		②社会的マイノリティ	当事者および支援者 13人
	3年生	○在日韓国・朝鮮人	映画『60万回のトライ』・コマプレス 朴思柔氏、朴敦史氏
2018	1年生	①ネットモラル	KDDI ケータイ安全教室
		②学校生活と人権	アンケートとその結果
		③性的マイノリティ	HIVと人権情報センター村上貴大氏、内藤れん氏
	2年生	①身体障害者	映画『あぜみち ジャンピンツ!』
		②障害者スポーツ	NPO 法人パラキャン 諸隈有一氏
		③社会的マイノリティ	当事者および支援者 13人
3年生	○在日外国人を知る	映画『60万回のトライ』・コマプレス 朴敦史氏	

2. GCに関連する応用研究と思想的リーダーシップの推進およびGC原則の普及

本校は、前項で示した教育を行うことに加えて、授業『探究』において2年生が行った課題研究の研究成果を広く社会に公開することでGCに関する思想的リーダーシップの推進とGC原則の普及に貢献しようとしています。

具体的には、①2月学習成果発表会「千里フェスタ」における全課題研究の口頭発表を一般公開、②優れた研究を集めた論文集を作成しWeb上で公開、③全国スーパーグローバルハイスクール課題研究発表会と大阪大学国際公共政策コンファレンスに優れた研究を行った生徒を派遣し研究を発表、④各取組の内容と「生徒が学んだこと」を詳細に専用ブログで発信、しています。

■パートⅢ. 成果の測定

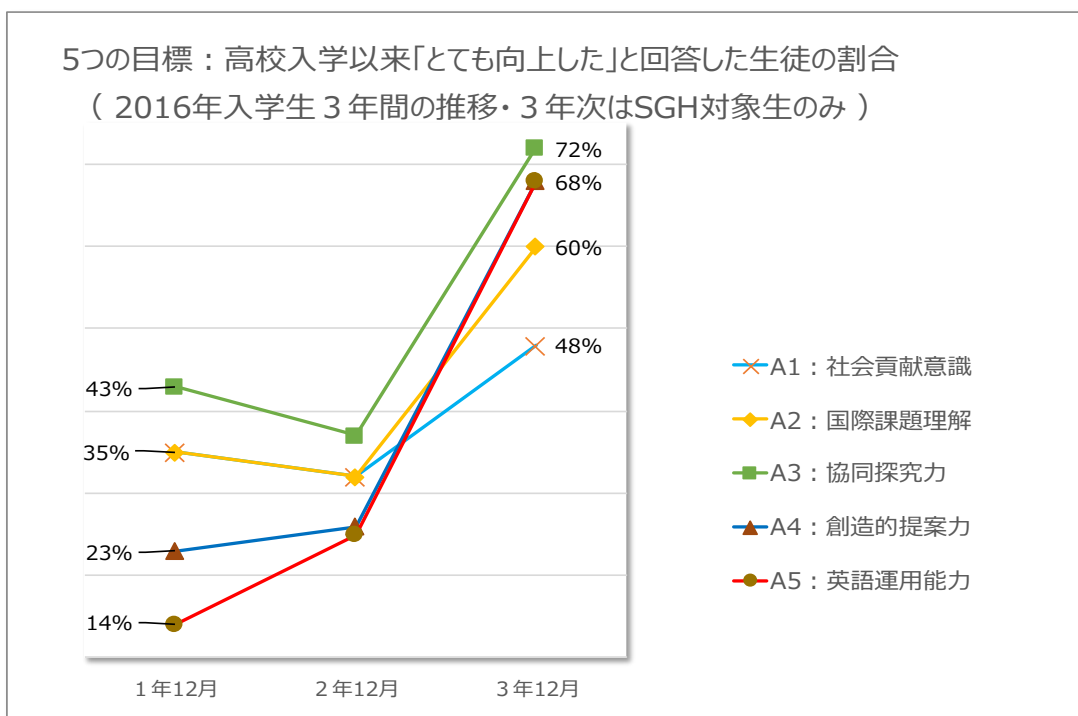
1. GC に関連するテーマについての教育の提供

本校ではスーパー・グローバル・ハイスクールとしての取組の目標として5つの意識・理解・能力を設定し、各年度の12月に生徒に自己評価をしてもらっています。

5つの目標とは、①高い社会貢献意識、②国際的課題についての多面的な視点と深い理解、③国際的課題について他者と連携・協調しつつ探究する力、④ステークホルダーがWin-Winの関係となるよう柔軟かつ創造的な提案を行う力、⑤高いレベルのコミュニケーション・ツールとしての英語力です。これらについて高校入学時と比べてどれくらい向上したと感じているかを「とても」「多少」「あまり感じない」の3段階で尋ねています。

2016年度から2018年度までの3年間在学した生徒の経年変化を示したグラフが以下のものです。「とても」向上したと答えた生徒の割合を、目標ごとの折れ線で表しています。1、2年次は国際文化科4クラスの生徒全体が、3年次は英語の選択科目を取った生徒が母数になっています。

目標によって変化の仕方に違いはありますが、GCの課題に取り組むための意識や理解、能力が「とても」向上したと答える生徒の割合が確実に高まっていることが示されていると考えています。



2. GC に関連する応用研究と思想的リーダーシップの推進、および GC 原則の普及

①本校では生徒たちがGCに関連した課題を能動的に学ぶ課題研究を重視しています。どのような関心を生徒が持ち、どのような内容を研究し、発表の場で発信したのかをお分かりいただくため、2018年度に国際文化科2年生が行った課題研究128件（共同研究があるため生徒数160と一致しません）のテーマを以下に示します。研究は、人権・労働・環境とその背景となる教育・グローバリゼーションの講座、それにTOEFL対策を兼ねて英語でのインプットとアウトプットを求めた講座の5種類12講座に分かれて行いました。（2019年度はSDGのテーマに基づき講座を編成しています。）

1. 講座・人権(2 講座)

1. なぜ『屠殺(とぎつ)』は私たちに身近なものではないのか
2. シングルマザーと児童虐待の関係は
3. どうすれば児童虐待を減少できるか
4. 貧困世帯にいる子どもと普通の子どもの成績の差をなくすためにはどうしたらよいか
5. 長時間労働をなくすためにすべきことは
6. 元受刑者が社会復帰するためには 2-1 鈴木陽太
7. 母親が子どもを愛することは“当たり前なのか”
8. 出産後も女性が働き続けるためには
9. 日本において安楽死は合法化されるべきか
10. マタニティハラスメントを解消するためには
11. 少年法は“甘やかし法”であるのか
12. 貧困による子ども虐待をなくすためには
13. 性暴力における男性被害者を救うためには
14. 『ちびくろサンボ』絶版から考える黒人差別を解決するためには
15. 過労による自殺をなくすためには
16. 最期の在り方を選択できるようになるには
17. 子どもの幸せを守るためには
18. 障害者雇用促進法は問題のない障がい者雇用対策か
19. 見た目問題
20. ひきこもりを社会復帰させるには
21. 女性が働きやすい社会を作るには
22. 在日韓国・朝鮮人への差別をなくすには
23. 報道被害をなくすには

2. 講座・労働(2 講座)

24. 長時間労働の悪循環
25. 千里生が『働くこと』に対して積極的な見方を持つためにはどうすればよいか
26. 成果主義とは
27. パートタイム労働者に課せられる処遇問題と対応とは
28. スウェーデンと日本の育メン
29. 障がい者雇用～安心して仕事ができるために～
30. 過労死とその対策
31. ブラック企業
32. なぜ現代日本の女性は仕事と育児の両立が難しいのか
33. 日本が労働先進国のような働きやすい国になるには
34. 女性活躍後進国
35. ブラックバイトによる学生の被害を減らすには
36. AI の利用によりおきている問題、見えない未来の労働環境
37. インドにおける児童労働
38. 雇用形態と幸福の関係とは
39. 最近の若者は本当にいけないのか
40. 労働にとっての睡眠の重要性
41. 中間管理職と心の健康
42. 宝くじで一生涯暮らせる分のお金が当たったとしても、働きたいと思える職場を作るには
43. 過剰な自主規制を引き起こした原因について
44. 職場における女性の在り方とは
45. 企業で AI を有効活用するには
46. より良い賃金制度へ進むには
47. 少子化のなか、なぜ先生は多忙なのか？

3. 講座・環境(2 講座)

48. 聴覚障がい者の交通問題～梅田駅がデイズニーリゾートから学ぶこと～
49. 高校生のネットいじめはなぜなくなるらないのか
50. 子どもを孤食から解放するとともに地域を活性化させるにはどうすればよいか
51. 大阪湾のプラスチックごみの原因と対策とは
52. 外国人労働者が働きやすい環境を作るには
53. コンビニの 24 時間営業は本当に必要なのか
54. 起立性調節障害の生徒へのサポート環境をどのように整えていくべきか
55. 学生アルバイトの労働環境
56. イリオモテヤマネコを絶滅の危機から守るにはどうすればよいか
57. 女性が辞めずにすむ会社づくりとは
58. 日本の非正規労働者の待遇を改善するには
59. 和泉葛城山のブナ林を守るために
60. 犬猫の殺処分数を 0 にするために
61. 航空管制官の勤務環境は整備されているのか
62. 長時間労働を改善するには
63. 日本の過疎地域対策とは

4. 講座・教育(3 講座)

64. 小学校から英語を教科化して行うことは必要なのか
65. メディアリテラシー教育の在り方
66. 通信制教育と教育課題
67. ゆとりですが何か
68. 日本の教員は働き過ぎ？
69. 学習の質を高めるために
70. 病気の子どもと兄弟の不安
71. どのように日本語と向き合うべきか
72. 学費が無償になる？
73. 部活動に意味はあるのか
74. 学習塾は本当に必要なのか
75. 勉強をどうとらえるべきか

76. 奨学金問題	85. 高齢者の体力向上には何をすべきか
77. 小学生に英語は早いのか	86. いじめの現状と解決策
78. 教師の長時間労働の原因と改善方法	87. 待機児童～ゼロへの道～
79. 日本の小学校教育に英語はいらぬか？	88. 体罰は×(バツ)！
80. 飢餓地域における食育	89. ケニアの初等教育の質を上げるにはどうすればよいか
81. 音楽教育のメリットとは？	90. スリランカと日本の比較から生まれる最適な教育
82. 子どもの手本	91. ブータン王国の教育から見る日本の教育
83. 体罰問題の改善について	92. 『千と千尋の神隠し』から見る思春期の子ども
84. 勉強がしたくなる講座	93. 日本の子どもたちを解放せよ

5. 講座・グローバルゼーション(2 講座)

94. どちらのワンピースを選びますか？～児童労働をなくすには～	101. イギリスの EU 離脱から考えるグローバルゼーションの課題とは
95. 広告に見られる人種差別を撤廃するには	102. 本当に英語は必要なのか
96. 海洋汚染を解決するには	103. 自動車産業の現状から見える課題と解決策とは
97. チャドの貧困の原因と解決策とは	104. フェアトレードは本当にフェアなのか？
98. グローバリゼーションはアイデンティティを消失させたのか？	105. グローバル人材を育成するには
99. LGBT の人々が暮らしやすくするには？	106. 外国人労働者の受け入れ現状と難点
100. 宗教に対する一方的な嫌悪をなくすには？	107. なぜ日本のファッション業界は海外に進出しないのか
	108. 中国における飢餓と経済格差の実情と解決案

6. TOEFL 探究(1 講座)

109. How to Reduce the Number of NEETs	119. Internet Dependence of Students
110. The Effects of the Japanese Women's Diet	120. Discrimination of Sexual Minorities
111. The Decline of Face to Face Communication	121. Is Japanese Education Truly Good for Us?
112. Gender Discrimination at Japanese Companies	122. Closing the Digital Divide
113. Junior High School Graduates and Poverty	123. Improving Education in Hospitals
114. Art Education in Japan	124. Supporting the Lives of Poor Children in Japan
115. Overcoming Language Barriers	125. English Education in Japan
116. Improving the Working Conditions of Technical Intern Trainees	126. The Effects of Poverty on Child Education
117. Immigrants and Their Families	127. Motivation for Studying and Getting Good Grades
118. A Comfortable Life for Orphans in Japan	128. Volunteering for Tokyo 2020?

② 2 年生の生徒たち全員が研究の発信をする場である校内学習成果発表会「千里フェスタ」(2018 年度・2019 年 2 月 10 日実施)には、他校教員等 43 名、中学生 120 名、保護者 211 名、企業等 7 名が来場されました。

保護者からは、「社会に出る前の高校生がこのようなテーマに取り組んでいることに対し、企業の管理職としてとても興味を持ち、頼もしく感じました。」「発表内容を見て興味を持ったものがたくさんありました。」「参加して下さったコメンテーターのご意見は大人としても参考になるものでした。」「講評の先生方のお話、とても感じるどころがありました。」といった感想をいただきました。研究活動の意義を認識していただいただけではなく、研究テーマ自体にも興味を持っていただいたことがわかります。

③ スーパー・グローバル・スクールとしての本校の取組を発信する専用ブログでは、既述の各取組みの内容と、生徒がどのように感じたのかをできるだけ詳しく紹介しています。プログラムに参加していない方にも

GCの10原則に関わる社会課題を知っていただくためです。このブログは、ページビュー数が2019年8月現在で25,000を超えました。

ビュー数が最も多かったのは、本校がUNGCに署名したことをその理由とともに書いた記事です。おそらく企業関係の方がご覧いただいたものと推測しますが、高校がUNGCに関わることへの関心の高さが伺えます。

千里高校SGHプロジェクト Senri High School SGH Project

2017年8月26日 土曜日

「国連グローバル・コンパクト」の署名団体になりました。

～未来を見据えて今の学びに取組み、頼もしい地球市民となってくれることを願って～

■国連グローバル・コンパクト（UNGC）は、「各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組み」です。

「1999年の世界経済フォーラム（ダボス会議）の席上でコフィー・アナン国連事務総長（当時）が提唱し」、
「2000年7月26日にニューヨークの国連本部で正式に発足」しました。

「現在（2015年7月時点）では世界約160カ国で1万3000を超える団体（そのうち企業が約8,300）が署名し」、活動を展開しています。

UNGCに署名する企業・団体は、
<人権の保護>、<不当な労働の排除>、<環境への対応>、<腐敗の防止>に関わる10の原則に賛同し、その実現に向けて努力を継続することを宣誓、実施、報告します。

>以上引用は、UNGCの日本におけるローカルネットワークGCNJのサイトから。さらに詳しくは、[同サイト](#)へ。

■本校は、この10原則への支持を表明するとともに、具体的には次の2点を掲げて10原則に貢献することとしています。

1. 将来における最善の実践を進めるための新時代を築いていく考え抜かれたリーダーシップ養成のために、SDGsに深く関連した地球的課題に関する教育プログラムと授業を生徒に提供すること。
2. 生徒による研究成果を発表・公表することを通して、様々な人々が持続可能性について学ぶ機会を提供すること。

次にビュー数が多いのは、全国スーパーグローバルハイスクール課題研究発表会 <SGH 甲子園 2017>

（主催：関西学院大学,大阪大学,大阪教育大学）において本校国際文化科2年生の研究「ファストファッションブランドの服はなぜ安いのか」が日本語プレゼンテーションの部で最優秀賞に選ばれたことを紹介する記事です。この記事では発表原稿も掲載しました。そのため他校から教材に使うための許可を求める連絡を複数件いただきました。社会課題について高校生が主体的に学ぶ機会を提供しようとする他校教員の関心にも応えられていることを示すものと考えています。

④専用ウェブサイトでは、この他、年次報告書・指導のために作成したテキスト・優秀論文集などを公開し、必要に応じてダウンロードしていただけるようにしています。

以上